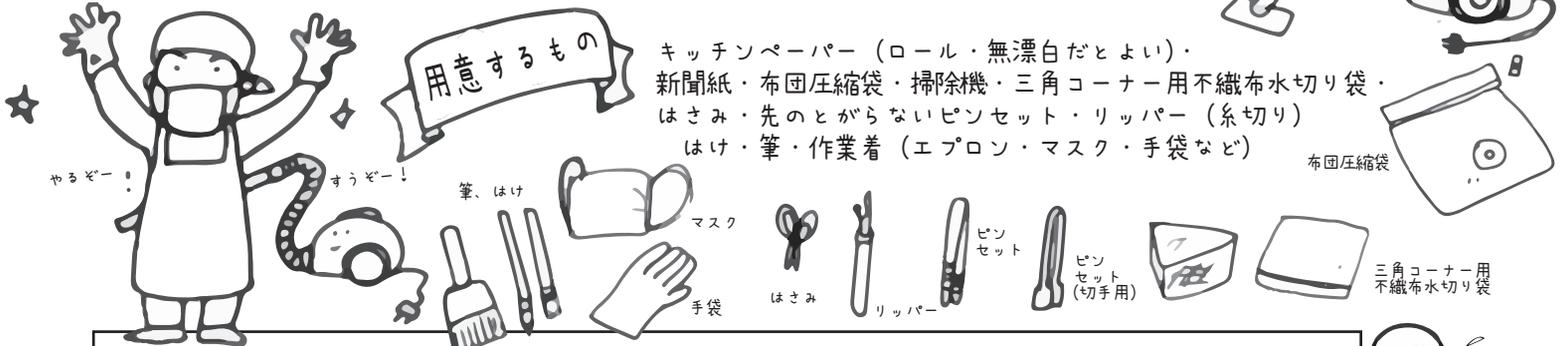
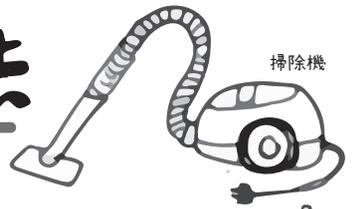


紙資料の応急処置

スクウェルチ・パッキング法



用意するもの

キッチンペーパー (ロール・無漂白だとよい)・
新聞紙・布団圧縮袋・掃除機・三角コーナー用不織布水切り袋・
はさみ・先のとがらないピンセット・リッパー (糸切り)
はけ・筆・作業着 (エプロン・マスク・手袋など)

ぬれてしまった資料の水分を、身近な道具を使って取り除くための方法です。
子どもから大人まで、年齢や経験問わず、みんなでできるのが特徴です。
カビの発生を避けるため、作業の開始はできるだけ気温の低い時に行いましょう。

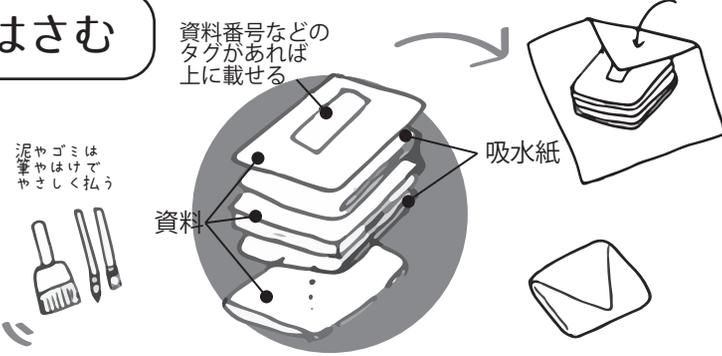


吸水紙を準備

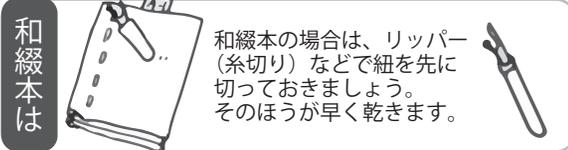
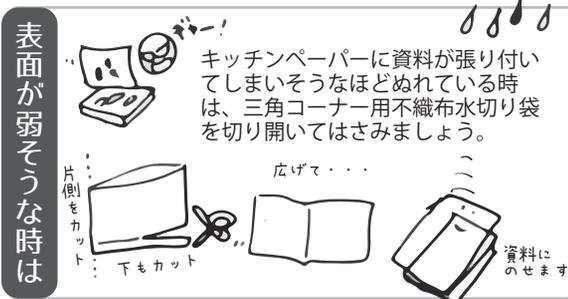


①新聞紙をキッチンペーパーで巻いた吸水紙を、なるべくたくさん用意します。

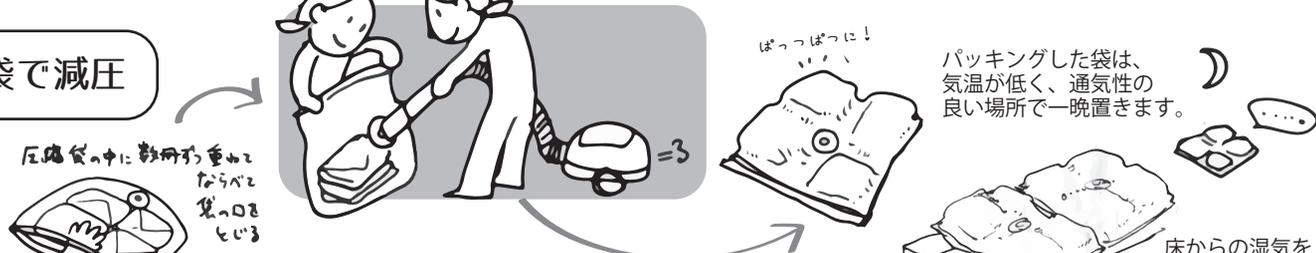
資料にはさむ



②資料と給水紙を交互に重ね、新聞紙で包みます。
たくさんはさみこむほど、早く水分が抜けます。



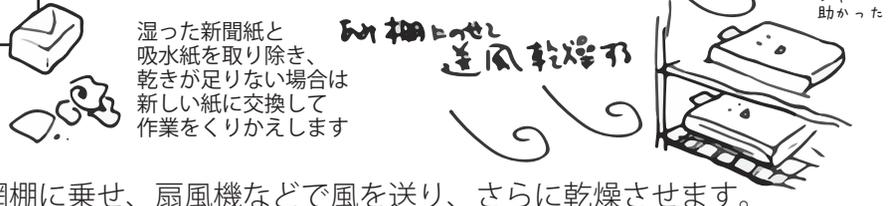
布団圧縮袋で減圧



③布団圧縮袋の中に新聞で巻いた資料を並べ、掃除機で
空気を抜きます。空気を抜くことでカビの発生を抑え、
自然乾燥させるよりも早く水分を抜くことができます。



送風乾燥する



④網棚に乗せ、扇風機などで風を送り、さらに乾燥させます。

完了!

⑤作業完了の目安は紙の水分量平均 7%前後。ふだん触って
いる本の感じです。済んだら、乾燥した場所で保管しましょう。



ひもを切った和綴本は
薄葉紙を細く裂いたもの
などでとめておきましょう